

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03585

研究課題名(和文)「日韓相互認識」研究の新展開

研究課題名(英文) New Development in the Study of Japan-Korea Mutual Recognition

研究代表者

吉田 裕 (YOSHIDA, Yutaka)

一橋大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：20166979

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東アジア世界の中の日本・朝鮮の關係に焦点をあわせながら、日本の側の対朝鮮認識がどのようにして歴史的に形成されたのかという問題を、朝鮮の側の対日本認識の形成と関連させながら、歴史具体的に明らかにしようとするものである。こういった相互の対外認識の歴史的形成を解明しようとする研究を「日韓相互認識」研究と呼び、これを、日本の研究機関に属する研究者だけではなく、20年の研究交流の蓄積を踏まえつつ新たなメンバーを加えてソウル大学校を中心とする韓国の歴史研究者との研究交流(共同研究や共同史跡踏査、シンポジウム、等)を通じて行うことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日韓兩國關係が「歴史認識」問題をめぐって対立し不安定化する状況のなかで、本研究が、兩國の研究者間の相互交流のネットワークの発展におおいに寄与してきたことを、本研究の最大の成果として意義づけたい。本研究の研究期間に2回(2018年度、2019年度回)のシンポジウムと共同史跡踏査を行った。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって対面での研究交流が中断されてからも、オンラインによるより密な研究交流を実施することができた。以上を通じて、なによりも、お互いへの信頼感を醸成するとともに、「日韓(韓日)相互認識」研究の発展の方向性について問題意識を共有することができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is intended to make clear concretely the problem that how the recognition toward Korea in the Japanese side is formed historically while connecting to the formation of the recognition toward Japan in the Korean side with focusing on the relations between Japan and Korea in the East Asian world. We call this kind of study which attempt to elucidate the historical formation of mutual foreign recognition the study of “Japan-Korea mutual recognition,” and it could be done through the study exchange (joint research, joint exploration on the historic sites and symposium and others) with historical scholars in Korea, mainly in Seoul National University, with new members added based on the 20 years of accumulated research exchange.

研究分野：日本近現代史

キーワード：日本史 東洋史 朝鮮史 交流史 学術交流 相互認識

1. 研究開始当初の背景

歴史認識の問題が、東アジアにおける国際関係を不安定化させる重要な要因として大きな注目を集めるようになって久しい。この問題は、各々の国民国家が国民的統合の基盤としている「記憶の共同体」相互の相克や摩擦という側面を有しているだけに、ひとたび問題への対応を誤ると、深刻な政治問題に発展する可能性を常に有している。実際、領土問題や「慰安婦」問題など、近年の東アジアにおける重要な政治課題は、歴史認識の問題と密接に関わっており、それらの政治的な解決が目指されるのとは裏腹に、問題はむしろ根深さを増しているといわざるをえない。こうした情勢のもと、歴史学に求められているのは、この「記憶の共同体」をいかに歴史的に相対化するかという学問的試みではなからうか。すなわち、記憶相互のせめぎあいと国家や社会諸集団による関与をへて、「記憶の共同体」がいかに形成されるのか、またそこにどのような亀裂や矛盾の契機が含まれているのかを実証的に明らかにすることである。その際、重視すべきは、他者認識の問題であろう。「記憶の共同体」の核をなすのは、歴史・文化・伝統を共有するとされる「日本人」としての同胞意識だが、これは他者認識と密接不可分の関係にあり、他者との様々なレベルでの交流をとおして形成される側面を有している。そのような意味でいえば、同胞意識にせよ他者認識にせよ、それらは交流のなかで形成されるとともに、不断に変容する可能性を帯びているといえる。そして、日韓の交流と対話の必要性が叫ばれつつも、一方でその回路が不安定化している昨今、他者認識の重要性は増すばかりである。そこで本研究では、「記憶の共同体」の形成過程において、この他者認識がいかにして形成され、変容してきたのかを問うこととしたい。具体的には、日本人の朝鮮認識の形成と変容の過程を、朝鮮における日本認識の形成と変容の過程ともクロスさせながら、歴史的に解明することを目指す。

2. 研究の目的

本研究は、東アジア世界のなかの日本・朝鮮関係に焦点をあわせながら、日本における朝鮮認識がどのようにして歴史的に形成されたのかという問いを、朝鮮における日本認識の形成と関連させながら、実証的に明らかにしようとするものである。このような、日本・朝鮮相互の対外認識の歴史的な形成を解明しようとする研究を「日韓相互認識」研究と呼び、これを、日本の研究機関に属する研究者だけではなく、韓国の歴史研究者との研究交流（共同研究・共同歴史踏査・シンポジウムなど）をとおしておこなう。本研究では、これまで20年間にわたって蓄積してきた研究交流の実績をふまえたうえで、多くの新たなメンバーを迎え、新たな視角から研究を展開する。今日の東アジア情勢に鑑みるに、「日韓相互認識」の必要性は、かつてないほどに高まっている。こうしたなかで、日韓の研究交流は懸命に続けられているものの、それぞれのとり組みが縦横のつながりを欠いたまま、個別分散化する傾向にある。それを通時代的・分野横断的に克服するとり組みとして、本研究はある。

3. 研究の方法

研究目的を達成するために、以下の7つの作業班を設け、それぞれに研究活動を集中しておこない、その成果を国内の研究者で構成される「日韓相互認識」研究会の場にもちよって、情報を共有するとともに、議論・検討をかさねることで、共同研究として深化させる。それをさらに、韓国の歴史研究者とともに日韓歴史共同研究シンポジウムや日韓共同歴史踏査、日韓地域社会史研究会、「日韓相互認識」国際セミナーなどの場にもちこみ、その成果をフィードバックすることで研究を展開させる。シンポジウムや踏査の成果を報告書としてまとめるとともに、研究会誌『日韓相互認識』を発行し、一橋大学機関リポジトリをとおしてインターネットで発信する。

各作業班の具体的な検討課題・方法・展望は、以下のとおりである。

植民地期における近代学校教育の実態とその歴史的意義を具体的に解明し、戦前から戦後への連続／非連続を見据えた諸学校の展開を、両国の社会の変容過程と相互の関係性に注目して、比較の視点から検討する。近代的学校教育に関わらなかった人びと、そこから漏れた人びとの問題にも注目する。

植民地化以前の朝鮮における医療・衛生環境を、伝染病流行への対処のあり方を中心に検討した上で、植民地期に日本主導で進められた医療・衛生行政を跡づけ、それが在来の医療・衛生環境とどのように切り結び、相互にどのような影響を及ぼしたのか、分析する。さらに、解放後の韓国で、植民地期にもたらされた医療・衛生環境がどのように受容ないし破棄され、変容していくのかを、同時代の日本の状況との比較のもとに検討する。また、日本で罹病した朝鮮の人びと、朝鮮で罹病した日本の人びとが、それぞれどのように処遇され、かれら自身がそれをどのように受けとめ、生きようとしたのかに注目する。

日本・朝鮮の支配者（官僚・君主）のあり方や、それぞれの社会が持った政治文化について、日本近世史の論点をふまえて、比較的研究を深める。特に、日本と朝鮮の戦争や災害に対する考え方の相違を考察する。また、東アジアの「近世化」をめぐる近年の議論を再検討する。

ヒト・モノ・情報の移動をめぐる日朝関係史を検討する。一つには、宗家の蔵書目録（対馬歴

史民俗資料館)にもとづいて、日朝関係に関わって対馬藩に蓄積された蔵書を分析することで、日本の朝鮮認識の特質を具体的に明らかにする。二つには、朝鮮王朝後期における日朝外交・日朝貿易の朝鮮側の窓口だった東萊府の実態を解明する。三つには、日朝修好条規締結以後、変容する日朝関係のなかで新たに生じた外交上の摩擦を明らかにする。四つには、現代における日朝関係の歴史的位置を、未来を展望しながら検討する。

朝鮮人社会と日本人社会とを媒介していると考えられる人びとに着目する。具体的には、日本の動向に対して賛否あざなえる対応をした朝鮮の言論人・渡日朝鮮人留学生・在日朝鮮人に着目し、それらの人びとの日本観・日本認識を再検討し、その役割と歴史的意義を検討する。

朝鮮を植民地支配するにあたって日本は、朝鮮を「文明化」し、「開発」する使命があるとして、その正当化を図った。そうした「文明化」のイデオロギーの具体相を明らかにするとともに、かかる正当化の論理が戦後日本の朝鮮認識に及ぼした影響について分析する。その上で、日本の支配下において、朝鮮人の知的・文化的営みがどのように展開したのか、それは日本の支配政策とどのように相互規定的な関係にあったのかを分析する。また、そのことが戦後朝鮮の日本認識にどのような影響を及ぼしたかについても分析する。

植民地化以前の朝鮮における都市と周辺地域社会の様子とその変容について明らかにした上で、植民地期朝鮮における都市とその周辺地域の「開発」と変容の過程を跡づけるとともに、そのもとでのかならずしも権力の意図どおりではない都市や地域社会の変容の様相を注意深くとらえる。さらに、解放後、植民地化以前～植民地期の都市や周辺地域の「開発」が、どのように存続ないし変容してきたのか、それはどのように記憶されているのかを、現在進行中の問題として問う。

4. 研究成果

(1) 日韓両国が「歴史認識」問題をめぐって深く対立し、関係が不安定化する状況のなかで、本研究が、両国の研究者間の相互交流のネットワークの大きな発展に寄与してきたことを、本研究の最大の成果として意義づけたい。特に2018年度には韓国側に中堅・若手を含む新たな多くのメンバーを迎え、これまで以上に広範な研究者とともに「日韓相互認識」研究を推進することができた。本研究の研究期間に2回(2018年、2019年)のシンポジウムと共同史跡踏査を行ったこと、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によってこれらが中断されてからも、オンラインによる日韓地域社会史研究会などを通じて研究交流を進めてきた。そうした活動を通して、なによりも、お互いへの信頼感を醸成するとともに、「日韓(韓日)相互認識」研究を発展させていく方向性について問題意識を共有することができた。この点を第一の成果として指摘しておきたい。

(2) 7つの作業班がそれぞれの計画に応じて資料収集と調査を行い、研究成果を挙げることができた。

(3) 7つの作業班の研究成果を持ち寄って、研究分担者と研究協力者が集う「日韓相互認識」研究会を3回開催した。開催日及び報告者は次の通りである(敬称略)。第30回(2019年3月31日、一橋大学マリーキュリータワー3601室): 金誠明(一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程)「解放後の国籍をめぐる在日朝鮮人運動」、米津篤八(一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程)「朝鮮戦争における米軍の言論統制」。第31回(2022年7月30日、オンライン): 金ユビ「戦時期植民地朝鮮における海軍特別志願兵制度の実態～朝鮮人海軍特別志願兵の教育と配属状況を中心に」。なお、第31回は、「日韓相互認識」国際セミナーとし、日韓通訳を入れ、一般公開とし、韓国の研究協力者も多数参加した。第32回(2022年9月3日、オンライン): 李豊海「新潟県事件をめぐる朝鮮人の調査活動 朝鮮共産主義グループの動向から」、鄭歎歌「朝鮮水電株式会社による『火田整理事業』」、金功熙「戦時『開発』計画と済州島社会」。

(4) 本研究の総括と、韓国の日本史・朝鮮史研究者(ソウル大学校・ソウル市立大学校を中心とする研究者)との研究交流のために、2018年度、2019年度に、日韓歴史共同研究シンポジウム及び日韓関連史跡の共同踏査を行った。概略は次の通りである(敬称略)。

<日韓歴史共同研究シンポジウム・共同踏査2018>(日本・東京、北関東、日程2018年8月19～22日) 8月19日: レセプション、8月20日: 国際シンポジウム(一橋大学インテリジェントホール) 報告: 金昌洙「19世紀後半華西学派の対外認識の地形変化」(討論者: 糟谷憲一) 木村直也「明治維新と日朝関係」(討論者: 盧官汎) 梁知恵「植民地期日本窒素の水力発電所建設と「開発難民」問題—水没民再定着と火田民澤さんを中心に」(討論者: 高柳友彦) 石居人也「東京西郊地域の近代」(討論者: 洪宗郁) 廉馥圭「戦時期における朝鮮総督府の都市住宅政策と朝鮮住宅営団」(討論者: 君島和彦)。8月21～22日: 共同学術踏査 日光東照宮と足尾鉍毒事件をテーマに踏査した。主な踏査先を列挙すれば次の通りである。朝鮮通信使今市客館跡、日光街道杉並木、日光東照宮、輪王寺、二荒山神社、足尾銅山、田中霊祠、渡良瀬遊水池、等々。

<日韓歴史共同研究シンポジウム・共同踏査2019>(韓国・ソウル、京畿道、日程2018年8月18～21日) 8月18日: レセプション、8月19日: 国際シンポジウム(ソウル大学)

若手報告：申載浚「掛け違えた最初のボタン—請求権問題に関する金鍾泌・大平正芳合意の逆説」、蔣允杰「明治日本の朝鮮半島認識—軍事的役割の拡大という側面から」、高泰雨「日帝下朝鮮の土建業界と植民地開発」、芹口真結子「近世日本仏教の民衆教化」、CSENDOM Andrea「戯作界の転機としての寛政改革—黄表紙の捉え方の問題」。主題報告：石居人也「『明治』あるいは『日本の近代』をめぐる歴史認識と歴史研究—『明治百年』から『明治150年』への史学史試論—」（討論者：朴俊炯）、盧官汎「韓国通史から見る『實学』知識史試論」（討論者：林雄介）、瀬畑源「象徴天皇制の形成と展開」（討論者：李正善）、李庸起「臨政法統論の神聖化と民族主義の屈折」（討論者：鄭榮桓）。8月20～21日：共同学術踏査：「衝突と共存の境界地帯」をテーマに京畿道坡州、富川の三菱社宅跡、仁川の日本租界跡、等々を踏査した。

(5) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、日韓往来が大幅に規制され、2020年度以降は日韓歴史共同研究シンポジウム・共同踏査を中断せざるをえなかった。そうした中でも、日韓学術交流を活性化するために、2021年5月29日に日韓両国の代表者が集まりオンラインでの共同研究の方法を検討した。その結果、日韓双方から代表者を出す形で「日韓地域史研究会」を新たに立ち上げ、医療・衛生や都市史などに関心を有する研究者が、共同研究を積み重ねることになった。日韓地域史研究会は、これまでのように年に一回のシンポジウムだけで交流するのではなく、2～3ヶ月に一度というスパンで研究会を積み重ね、これまで以上に問題意識を高度なレベルで共有することを目指した。「地域史」を掲げたのは、本研究プロジェクトの7つの作業班の研究課題の多くが、「地域史」と深く関係すると判断したためである。「日韓地域史研究会」は以下の7回開催した（すべてオンライン）。

第1回（2021年7月14日）朴俊炯「韓国近代史—境界・法・国際秩序—空間の再編という観点から」、梁知恵「韓国近現代『開発』の社会史」、李正善「私の研究と地域史」。第2回加藤圭木「日本の歴史認識と近代朝鮮の地域史研究」、石居人也「ひとつの『地域社会』としてのハンセン病療養所」、高柳友彦「近代日本における資源利用・資源管理の特質—温泉地を事例に—」。第3回（2021年9月29日）高柳友彦「日本帝国勢力圏内における資源開発・利用と地域社会」、李正善「私の研究テーマと共同研究」、梁知恵「共同研究テーマについて」、朴俊炯「環日本海・東海地域研究」。第4回（2022年2月3日）梁知恵「韓国近代経済史の研究動向と『脱成長』という問い—2000年以後の社会間接資本を中心に」、李正善「共同研究の方向性について」、第5回（2022年4月4日）高柳友彦「近代日本における資源『開発』と開発主義政策」、朴俊炯「『村落』—記憶の場所」、第6回（2022年6月8日）加藤圭木「帝国日本の性売買と地域社会—日本の研究を中心に」、石居人也「近代日本の『地域』はどのように問われてきたのか—ひとつの研究史整理として—」、第7回（2022年8月10日）高柳友彦「戦後日本における鉱山反対運動と温泉地—伊東温泉の事例に—」、梁知恵「朝鮮における日室財閥の開発と地域社会」。

以上を通じて、これまでのように日韓双方の研究者が研究成果を持ち寄って議論するだけでなく、両国の研究者がより密な形で問題意識を共有し共同研究を実施する方法について議論を深めることができた。

(6) 前掲の日韓シンポジウムの成果集（報告と討論）を編集・印刷し、各所に配布した。本研究の期間内に発刊したのは、次の1冊である。

『日韓歴史共同研究プロジェクト2018・2019シンポジウム報告書』『日韓相互認識』研究会、188頁、2021年3月31日

(7) 本研究会雑誌『日韓相互認識研究』を4号編集・印刷し、各所に配布するとともに、一橋大学機関リポジトリにて一般公開した。各号収載の論考は次の通りである。

『日韓相互認識』第9号、121頁、2019年2月20日：加藤圭木「植民地期朝鮮におけるイワシ漁業・加工業と統制政策（一九二三～一九三一）」、梁知恵「植民地期朝鮮における日本皇室の水力発電所建設と『開発難民』問題—水没民・火田民再定着事業を中心に」、崔仁鐵「国民保導連盟地方組織の幹部構成について—慶尚南道連盟および釜山連盟の事例を中心に」

『日韓相互認識』第10号、88頁、2020年3月10日：君島和彦「壬辰戦争と景福宮」、米津篤八「朝鮮戦争における米軍の言論統制—日本人従軍記者の報道事例から」、尹朝鉄「【史料紹介】江戸垂加派の神代文字論に関する史料—跡部良顕『和字伝来考』・伴部安崇『和字伝来考附録』」、伴野文亮「三遠農学社報徳部結社主意并規則」・「三遠農学社備荒儲蓄何町村組合規則」、翻刻—三遠農学社の思想史的研究のために」

『日韓相互認識』第11号、110頁、2022年3月10日：関原正裕「在郷軍人の『不逞鮮人』経験と地域」、金守香「敗戦前後の朝鮮人高犯罪率言説と日本の刑事政策」、アレキサンダー・ロタード「19～20世紀転換期の『ジャパントイムズ』と帝国日本—日英両国の接近と対外宣伝」

『日韓相互認識』第12号、88頁、2023年3月10日：金庚晁「戦時期植民地朝鮮における海軍特別志願兵制度の実態—朝鮮人海軍特別志願兵の教育と配属状況を中心に」、鄭歎耿「『朝鮮林政計画』と火田民—咸鏡南道新興郡東上面における火田整理事業を事例として」、金功熙「植民地期済州島における戦時『開発』計画」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 101
2. 論文標題 日本軍「慰安婦」問題と向き合うために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊セクシュアリティ	6. 最初と最後の頁 26 - 29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山内民博	4. 巻 27
2. 論文標題 朝鮮新式戸籍関連資料の基礎的研究(4) 国立歴史民俗博物館所蔵1906年平安南道孟山郡外南面戸籍	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 環日本海研究年報	6. 最初と最後の頁 103 - 116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鄭栄桓	4. 巻 52
2. 論文標題 「十四歳に満たない外国人」の起源をたどるー外国人登録の年令的免除者に関する覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人権と生活	6. 最初と最後の頁 60 - 64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 三ツ井崇	4. 巻 853
2. 論文標題 韓国における植民地期歴史像の葛藤 「反日種族主義」事態をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 28 - 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松園潤一郎	4. 巻 155
2. 論文標題 室町・戦国時代の法をみる視点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 26 - 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 糟谷憲一	4. 巻 855
2. 論文標題 書評 趙景達著『近代朝鮮の政治文化と民衆運動 日本との比較』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 98 - 102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李成市	4. 巻 -
2. 論文標題 朝鮮史の形成と展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『岩波講座世界歴史 6』	6. 最初と最後の頁 241 - 270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之	4. 巻 62
2. 論文標題 Memories of a hometown that connect to the future	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南太平洋海域調査研究報告	6. 最初と最後の頁 19 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之	4. 巻 19
2. 論文標題 地域の戦争の記憶をかたちづくる歴史実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本公民館学会年報	6. 最初と最後の頁 35 - 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口紘子・杉原薫・佐藤宏之・新名隆志	4. 巻 5 - 1
2. 論文標題 「戦争体験」を活用した平和形成主体育成の可能性 「歴史を学ぶ際に期待される行動と目的の組み合わせ」に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本体育大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之	4. 巻 73
2. 論文標題 地域の戦争の 記憶 をめぐる歴史実践 新たな価値の創出をめざして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鹿児島大学教育学部研究紀要 (人文・社会科学編)	6. 最初と最後の頁 11 - 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之・新名隆志・田口紘子・杉原薫	4. 巻 31
2. 論文標題 「戦争体験」を活用した平和教育における「当事者性」の獲得 歴史的アプローチ、倫理学・哲学的アプローチに着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 11 - 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関悠一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 熊本藩宝暦改革と近世後期の政治理念	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『永青文庫叢書 細川家文書 意見書編』(吉川弘文館)	6. 最初と最後の頁 383 - 390(424)
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬畑源	4. 巻 -
2. 論文標題 国会開会式と天皇－帝国憲法と日本国憲法の連続と断絶	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 吉田裕編著『戦争と軍隊の政治社会史』(大月書店)	6. 最初と最後の頁 336 - 367(384)
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若尾政希	4. 巻 929
2. 論文標題 百姓一揆から何が見えるのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 28 - 33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬畑源	4. 巻 702
2. 論文標題 敗戦直後の宮内省の天皇制政策：昭和天皇「戦後巡幸」前期(一九四六年)に焦点をあてて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 31 - 54
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 910
2. 論文標題 歴史に学び朝鮮半島との平和を築く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 54 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 842
2. 論文標題 問われる植民地支配認識 : 変貌する朝鮮半島と日本	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭栄桓	4. 巻 -
2. 論文標題 三・一独立運動の残響 在日朝鮮人史の視座から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 在日韓人歴史資料館編、李成市監修『東アジアのなかの二・八独立宣言 若者たちの出会いと夢』(明石書店)	6. 最初と最後の頁 149 - 171 (224)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李成市	4. 巻 -
2. 論文標題 韓国から見た『雑種文化論』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 三浦信孝・鷲巣力編『加藤周一を21世紀に引き継ぐために』(水声社)	6. 最初と最後の頁 367 - 389 (456)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関悠一郎	4. 巻 848
2. 論文標題 一九世紀における近世明君像と「仁政」・「富国」論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 19 - 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松園潤一朗	4. 巻 -
2. 論文標題 中世後期法制史研究 室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 秋山哲雄・田中大喜・野口華世編『増補改訂新版 日本中世史入門 論文を書こう』	6. 最初と最後の頁 315 - 333 (608)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之	4. 巻 -
2. 論文標題 未来につなぐ、ふるさとの記憶	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山本宗立・高宮広土編『魅惑の島々、奄美群島 歴史・文化編』(北斗書房)	6. 最初と最後の頁 37 - 41 (80)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伴野文亮	4. 巻 848
2. 論文標題 近代天皇制国家と「偉人」—金原明善の「偉人」化とその歴史的意味—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 59 - 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若尾政希	4. 巻 -
2. 論文標題 天道と日本近世の政治・社会・個人	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 檀国大学校日本研究所『東アジア知識人文学の実際』(韓国・BOGOSA)	6. 最初と最後の頁 131 - 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若尾政希	4. 巻 237
2. 論文標題 『シリーズ 本の文化史 3』を編みながら考えたこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若尾政希	4. 巻 89
2. 論文標題 百姓一揆から日本の近世を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 じっきょう 地歴・公民科資料	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石居人也	4. 巻 -
2. 論文標題 ハンセン病患者・療養者の隔離をめぐる「尊厳」 近現代の日本社会における	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 尊厳と社会 下巻(加藤泰史・小島毅編、法政大学出版局)(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 31-57(454)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ベヨンミ	4. 巻 67
2. 論文標題 1920年代二度の虐殺 ‘中津川事件、木本事件’の実態と関東大震災時虐殺との比較分析(ハングル)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 韓日関係史研究	6. 最初と最後の頁 267-302
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ベヨンミ	4. 巻 30
2. 論文標題 在日留学生奨学財団自彊会と天道教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文科学研究(徳成女子大学校人文科学研究所)	6. 最初と最後の頁 129-157
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 66
2. 論文標題 朝鮮植民地支配と国境地帯 会寧を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史海	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 86
2. 論文標題 豆満江の境界史 朝鮮植民地支配との関連から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史潮	6. 最初と最後の頁 76-93
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 980
2. 論文標題 問われているのは日本の植民地支配への反省	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 前衛	6. 最初と最後の頁 66-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 -
2. 論文標題 朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働 「韓国併合」一〇〇年をめぐる日韓の運動から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 パブリック・ヒストリー入門 (菅豊・北條勝真編、勉誠出版) (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 267-283 (512)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山内民博	4. 巻 25
2. 論文標題 19世紀末葉朝鮮北東部地域の社会秩序：咸鏡道洪原県の儒士・武士・富民	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 環日本海研究年報	6. 最初と最後の頁 32-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関悠一郎	4. 巻 40
2. 論文標題 幕末維新期の久留里藩と武士の学び	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 久留里城址資料館年報	6. 最初と最後の頁 23 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松園潤一郎	4. 巻 19 - 1
2. 論文標題 室町幕府の法概念に関する覚書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一橋法学	6. 最初と最後の頁 47 - 61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/31128	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松園潤一郎	4. 巻 18 - 3
2. 論文標題 將軍足利義植期の幕府訴訟制度について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一橋法学	6. 最初と最後の頁 107 - 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15057/30904	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村直也	4. 巻 17
2. 論文標題 「世界史のなかの明治維新」をめざすには	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治維新史研究	6. 最初と最後の頁 10 - 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口公一	4. 巻 221
2. 論文標題 植民地朝鮮における神社と「帝国意識」 在朝日本人社会と神社	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人民の歴史学	6. 最初と最後の頁 1 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池享	4. 巻 223
2. 論文標題 戦国時代を研究する面白さ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人民の歴史学	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川和也	4. 巻 -
2. 論文標題 歴史における「日常」の発見—大雅ドラマ・時代劇・司馬文学と戦後歴史学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文化研究における歴史と文学 (柳沢昌紀編、中京大学先端共同研究機構文化科学研究所) (図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 175-195(224)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之	4. 巻 4
2. 論文標題 大規模自然災害に備えうる / 耐えうる地域歴史文化の創成にむけて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鹿児島大学地震火山地域防災センター令和元年度報告書	6. 最初と最後の頁 108-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若尾政希	4. 巻 235
2. 論文標題 歴史研究に何が出来るか 『第4次現代歴史学の成果と課題』を編みながら考えたこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 36-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 若尾政希	4. 巻 -
2. 論文標題 天道と日本近世の政治・社会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法と国制の比較史 西欧・東アジア・日本 (水林彪・青木人志・松園潤一郎編、評論社)(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 511-529
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤宏之	4. 巻 -
2. 論文標題 地理情報システムを用いた歴史文化情報の可視化と災害対策への活用に向けた基盤構築	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鹿児島大学地域防災教育研究センター 平成30年度報告書	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小関悠一郎	4. 巻 846
2. 論文標題 江戸時代の「富国強兵」論と「民利」の思想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 39-56
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芹口真結子	4. 巻 -
2. 論文標題 真宗寺院と清内路門徒	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 山里清内路の社会構造 近世から近代へ(吉田伸之編、山川出版社)(図書所収論文)	6. 最初と最後の頁 196-224
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川和也	4. 巻 825
2. 論文標題 書評：田中秀樹著『朱子学の時代 治者の 主体 形成の思想』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 83-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松園潤一郎	4. 巻 18巻1号
2. 論文標題 中世における年紀法の機能と変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一橋法学	6. 最初と最後の頁 69-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15057/30229	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松園潤一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 序論 比較文明史論における法と国制	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法と国制の比較史 西欧・東アジア・日本（水林彪・青木人志・松園潤一郎編、評論社）（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林雄介	4. 巻 827
2. 論文標題 日本における三・一運動研究の動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三ツ井崇	4. 巻 827
2. 論文標題 三・一運動研究の諸相 特集に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田英里	4. 巻 874
2. 論文標題 兵士の傷と向かい合うということ:書評 中村江里『戦争とトラウマ』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育	6. 最初と最後の頁 104-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 891
2. 論文標題 三・一運動100年から何を学ぶか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 11
2. 論文標題 近代日本と植民地の公害	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境思想・教育研究	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 234
2. 論文標題 歴史認識・歴史教育をめぐる同時代史：日本軍「慰安婦」問題に取り組んだ経験から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 20-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤圭木	4. 巻 9
2. 論文標題 植民地期朝鮮におけるイワシ漁業・加工業と統制政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日韓相互認識	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 クォン・ヨンソク	4. 巻 -
2. 論文標題 「運命」に導かれた「キャンドル大統領」 文在寅政権の歴史的位相	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 運命 文在寅自伝（岩波書店）（図書所収論文）	6. 最初と最後の頁 389-399
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李成市	4. 巻 18
2. 論文標題 朝鮮古代史から東アジア史への展望	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 韓国研究センター年報（九州大学）	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計43件（うち招待講演 27件 / うち国際学会 25件）

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 大学生が向き合う加害の歴史－『「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし』を刊行して
3. 学会等名 第19回「歴史認識と東アジアの平和」フォーラム・北京会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤圭木
2. 発表標題 日本の歴史認識と大学生がつくった日韓関係入門書（原文：朝鮮語）
3. 学会等名 韓国・ソウル市立大学校2021人文大学校名士招請講演（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山内民博
2. 発表標題 20世紀初ソウルの懸房とパンイン－1906年漢城府戸籍の分析から－
3. 学会等名 朝鮮衡平運動史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小川和也
2. 発表標題 心齋杉原平助の思想 朱子学から清朝考証学へ , 小川和也, 旗本杉原家の世界 大番士・儒者・屋敷・絵画
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館主催「番方旗本家に関する総合的研究 大番士・儒者杉原家文書を中心に 」シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木村直也
2. 発表標題 東アジアにおける近代化と学知
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館第434回講演会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 生命分子論から見た文化論 - 日韓比較文化論を中心に
3. 学会等名 第13回東アジア人文学フォーラム（中国清華大学）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田智子・兼城糸絵・佐藤宏之
2. 発表標題 VRを活用した戦争遺跡踏査と参加体験型学習 鹿児島県を対象として
3. 学会等名 日本文化財科学会第38回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小関悠一郎
2. 発表標題 近世日本の政治理念とその変容 「仁政」・「富国」理念を中心に
3. 学会等名 明治維新史学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 若尾政希
2. 発表標題 近世日本の思想史的位置 政治思想をめぐって
3. 学会等名 韓国檀国大学校日本研究所国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭栄桓
2. 発表標題 日本への朝鮮人移住および強制動員の歴史とその法的地位 植民地期から解放直後を中心に
3. 学会等名 植民地化・植民地支配・脱植民地化の比較研究 フランス・アルジェリア/日本・朝鮮関係を中心に
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鄭栄桓
2. 発表標題 「日本帝国」膨張・崩壊期における移動と地域：徳島県西郡神山町役場文書から（報告3 敗戦前後の朝鮮人の移動と定着）
3. 学会等名 政治経済学・経済史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 芹口真結子
2. 発表標題 Temple Towns in the Capital: Higashi Honganji 's Temple Town in Early Modern Kyoto
3. 学会等名 Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀬畑源
2. 発表標題 敗戦直後の宮内省の天皇制政策：昭和天皇「戦後巡幸」前期(一九四六年)に焦点をあてて
3. 学会等名 日本史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 日本における韓国木簡研究の特徴 東アジア木簡研究への展望
3. 学会等名 国際学術大会「古代東アジア文字資料研究の現在と未来 韓国・中国・日本出土木簡資料を中心に」(韓国慶北大学校人文学術院)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 日本国号の成立時期とその国際的契機
3. 学会等名 第12回東アジア人文学フォーラム「典範轉移 - 東亞文化的互動與整合」(台湾大学)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢島桂
2. 発表標題 朝鮮殖産銀行による産業金融の展開と山一証券
3. 学会等名 日本近現代史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三ツ井崇
2. 発表標題 「同胞」と異民族の間 「日朝同源論」と人種言説の矛盾 朝鮮語
3. 学会等名 第3回人文韓国学国際学術大会「東アジア韓国学の疎通と拡散」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三ツ井崇
2. 発表標題 近代日本歴史学と朝鮮 喜田貞吉の「日朝同源論」を中心に 朝鮮語
3. 学会等名 延世大学校未来キャンパス人文韓国プラス事業団 第6回海外学者招請フォーラム(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三ツ井崇
2. 発表標題 三・一運動以後における日本の植民地統治政策と呂運亨招請問題 「自治」政策と言論政策の観点から
3. 学会等名 夢陽呂運亨東京帝国ホテル演説100周年記念国際学術シンポジウム「三・一運動の大団円、夢陽呂運亨東京帝国ホテル演説」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若尾政希
2. 発表標題 “Defining the historical role of early modern manuscripts in Japan”,
3. 学会等名 Symposium Religion in the Age pr the Book, Leiden University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若尾政希
2. 発表標題 天道と日本近世の政治・社会
3. 学会等名 檀国大学校日本研究所碩学教授招聘講演会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若尾政希
2. 発表標題 日本近世を生きた人びとの思想形成を考える
3. 学会等名 一般財団法人東方学会令和元年度秋季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松園潤一朗
2. 発表標題 鎌倉時代の裁判と「道理」の觀念
3. 学会等名 鎌倉遺文研究会 257回例会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村直也
2. 発表標題 19世紀における征韓論の表出 その背景と諸要因の考察
3. 学会等名 韓日文化交流基金国際学術会議「近世韓日関係の実像と虚像 不信と共存、戦争と平和」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口公一
2. 発表標題 植民地朝鮮における神社と「帝国意識」 在朝日本人社会と神社
3. 学会等名 東京歴史科学研究会第53回大会委員会企画報告（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池享
2. 発表標題 16-17世紀東アジアの変動のなかでの豊臣秀吉の朝鮮侵略
3. 学会等名 復旦大学“全球史中的東亞世界” 學術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 日韓の歴史認識をめぐって 文化の伝播と受容問題を手がかりに
3. 学会等名 ワークショップ 日本と韓国 言説の中で（再）構築される日韓関係（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 東アジアにおける知識の流通に関する一視角 国史の伝播と受容を中心に
3. 学会等名 2019年度東アジア知識人文学国際學術大会 東アジアの知識交流のメカニズム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石居人也
2. 発表標題 「明治」あるいは「日本の近代」をめぐる歴史認識と歴史研究 「明治百年」から「明治150年」への史学史試論
3. 学会等名 第2回日韓歴史共同研究シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤宏之・田口紘子・杉原薫・新名隆志・城野一憲
2. 発表標題 「戦争体験」を活用した平和形成主体育成のための「方法としての平和教育」の構築にむけて
3. 学会等名 社会家教科教育学会第31回研究発表大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川和也
2. 発表標題 昌平坂学問所と朱子学
3. 学会等名 杉本家文書第3回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 若尾政希
2. 発表標題 日本近世における写本の歴史的位罫
3. 学会等名 国際シンポジウム「書物を通してみる近世日本の文化・思想」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤宏之
2. 発表標題 ふるさとの記憶を未来へ 鹿児島資料ネットの取り組み
3. 学会等名 第33回人文機構シンポジウム 鹿児島大学・人間文化研究機構協定締結記念シンポジウム 「鹿児島の歴史再発見 - 新しい地域文化像を求めて -」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小関悠一郎
2. 発表標題 近世中後期における藩政理念の展開と変容
3. 学会等名 シンポジウム「熊本藩からみた日本近世 比較藩研究の提起」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石居人也
2. 発表標題 東京西郊地域の近代 19～20世紀転換期都市の空間編成と医療・衛生施設の郊外化
3. 学会等名 第1回日韓歴史共同研究シンポジウム(通算21回)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石居人也
2. 発表標題 墓地の発明から火葬の勝利へ フランスにおける死の変容(18-21世紀)
3. 学会等名 日仏会館・フランス国立日本研究所講演会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鄭栄桓
2. 発表標題 解放直後の在日朝鮮人運動と「関東大虐殺」問題：震災追悼行事の検討を中心に
3. 学会等名 関東大震災韓・中両国民虐殺95周年国際学術シンポジウム：解放後の日本関東大地震韓・中両国民虐殺に対する真相究明活動とその展望（独立記念館韓国独立運動史研究所、韓日民族問題学会）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鄭栄桓
2. 発表標題 A War between Japan and Zainichi Koreans?: The Korean War and the 'Nationality' Question
3. 学会等名 22nd Annual Asian Studies Conference Japan（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三ツ井崇
2. 発表標題 植民地期朝鮮における日本語の政治史・社会史試論
3. 学会等名 2018 Summer UBC International Conference「朝鮮／韓国の文化、社会の深層構造」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松田英里
2. 発表標題 総力戦体制下の「傷痍軍人」
3. 学会等名 日本史研究会「平和のための京都の戦争展」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 クォン・ヨンソク
2. 発表標題 韓国民主化運動の歴史と「キャンドル革命」
3. 学会等名 在日韓人資料館（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 李成市
2. 発表標題 国際化の中の日本研究 歴史研究を中心に
3. 学会等名 第3回 東アジア日本研究者協議会国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村直也
2. 発表標題 明治維新と日朝関係
3. 学会等名 第1回日韓歴史共同研究シンポジウム（通算21回）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 加藤圭木	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 244
3. 書名 紙に描いた「日の丸」 足下から見る朝鮮支配	

1. 著者名 加藤 圭木、一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 184
3. 書名 「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし	

1. 著者名 小林太郎、笠原十九司、吉田裕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新日本出版社	5. 総ページ数 320
3. 書名 『中国戦線、ある日本人兵士の日記：あとがき』（吉田裕）	

1. 著者名 鄭 栄桓	4. 発行年 2022年
2. 出版社 以文社	5. 総ページ数 512
3. 書名 歴史のなかの朝鮮籍	

1. 著者名 池享、櫻井良樹、陣内秀信、西木浩一、吉田伸之、石居人也、小酒井大悟、工藤航平、齊藤勉、初田香成、館野孝、小松愛子、小野一之、西木浩一、高江洲昌哉、谷口 榮	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 160
3. 書名 『みる・よむ・あるく 東京の歴史 10：序章 島嶼および二三区の隣接地域として他（池享）、医療と「療養」の街 清瀬・東村山・東久留米他（石居人也）』	

1. 著者名 宮嶋博史、吉野誠、趙景達、井上厚史、林雄介、愼蒼宇、古川宣子、小川原宏幸、宋連玉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 432
3. 書名 『攘夷と開化：論説 朝鮮朱子学と開化派の形成』（林雄介）	

1. 著者名 蘭信三、石原俊、一ノ瀬俊也、佐藤文香、西村明、野上元、福間良明、佐々木啓、三ツ井崇、大石茜、石田淳、崔徳孝、山本めゆ、陳來幸、青木深、古波藏契、高誠晩、竹峰誠一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 278
3. 書名 『総力戦・帝国崩壊・占領：第2章 「民族」の壁に直面した「内鮮一体」』（三ツ井崇）	

1. 著者名 日本史史料研究会、松園潤一郎、藤井崇、呉座勇一、平井上総、久保健一郎、水野智之、小池勝也、銭静怡、河内将芳、田中尚子、三枝暁子、菅原正子、川戸貴史、則竹雄一、生駒哲郎、西川広平	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 304
3. 書名 『室町・戦国時代の法の世界：序論 室町・戦国時代の法の世界、室町幕府法 法と裁判の特質、慣習と法 民間慣習の成文化』（松園潤一郎）	

1. 著者名 糟谷憲一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新日本出版社	5. 総ページ数 232
3. 書名 朝鮮半島を日本が領土とした時代	

1. 著者名 在日韓人歴史資料館、李成市、小野容照、ペ・ヨンミ、松谷基和、紀旭峰、小野寺史郎、鄭栄桓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 224
3. 書名 『東アジアのなかの二・八独立宣言：はじめに 東アジアのなかの二・八独立宣言、その歴史的意義（李成市）、第六章 三・一独立運動の残響 在日朝鮮人史の視座から（鄭栄桓）』	

1. 著者名 小関 悠一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 252
3. 書名 上杉鷹山「富国安民」の政治	

1. 著者名 池 享	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 232
3. 書名 毛利領国の拡大と尼子・大友氏	

1. 著者名 木村 元	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 272
3. 書名 境界線の学校史	

1. 著者名 高柳友彦	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 416
3. 書名 温泉の経済史 近代日本の資源管理と地域経済	

1. 著者名 岡本有佳、加藤圭木 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 168
3. 書名 だれが日韓「対立」をつくったのか	

1. 著者名 須川英徳、月脚達彦、三ツ井崇	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 352
3. 書名 『朝鮮の歴史と社会 近世近代：第1章第3節・第11～13章・第14章第3節・第15章第3節』（三ツ井崇）	

1. 著者名 松田英里	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 152
3. 書名 近代日本の戦傷病者と戦争体験	

1. 著者名 李成市	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三仁出版社、ソウル	5. 総ページ数 351
3. 書名 闘争の場としての古代史	

1. 著者名 若尾 政希	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 252
3. 書名 百姓一揆	

1. 著者名 李 成市	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 418
3. 書名 闘争の場としての古代史 : 東アジア史のゆくえ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>「日韓相互認識」研究会 コミュニティホームページ https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/handle/10086/17439</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	若尾 政希 (Wakao Masaki) (80210855)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	加藤 圭木 (Kato Keiki) (40732368)	一橋大学・大学院社会学研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	石居 人也 (Ishii Hitonari) (20635776)	一橋大学・大学院社会学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	小川 和也 (Ogawa Kazunari) (90509035)	中京大学・文学部・教授 (33908)	
研究分担者	糟谷 憲一 (Kasuya Kenichi) (80143345)	一橋大学・その他部局等・名誉教授 (12613)	
研究分担者	池 享 (Ike Susumu) (20134885)	一橋大学・その他部局等・名誉教授 (12613)	
研究分担者	瀬畑 源 (Sebata Hajime) (10611618)	龍谷大学・法学部・准教授 (34316)	
研究分担者	辻 弘範 (Tsuji Hinoronri) (20348494)	北海学園大学・経済学部・教授 (30107)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山口 公一 (Yamaguchi Koichi) (20447585)	追手門学院大学・経済学部・教授 (34415)	
研究分担者	小関 悠一郎 (Koseki Yuichiro) (20636071)	千葉大学・教育学部・准教授 (12501)	
研究分担者	矢島 桂 (Yajima Kei) (20707103)	富山大学・学術研究部社会科学系・准教授 (13201)	
研究分担者	李 成市 (Lee Sungsi) (30242374)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	松園 潤一郎 (Matsuzono Junichiro) (30588439)	一橋大学・大学院法学研究科・教授 (12613)	
研究分担者	山内 民博 (Yamauchi Tamihiro) (40263991)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	
研究分担者	木村 直也 (Kimura Naoya) (50192018)	立教大学・文学部・特定課題研究員 (32686)	
研究分担者	佐藤 宏之 (Sato Hiroyuki) (50599339)	鹿児島大学・法文教育学域教育学系・准教授 (17701)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 元 (Kimjura Hajime) (60225050)	一橋大学・大学院社会学研究科・特任教授 (12613)	
研究分担者	三ツ井 崇 (Mitsui Takashi) (60425080)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	芹口 真結子 (Seriguchi Mayuko) (70801158)	岐阜大学・地域科学部・助教 (13701)	
研究分担者	林 雄介 (Hayashi Yusuke) (00286246)	明星大学・教育学部・教授 (32685)	
研究分担者	クォン ヨンソク (Kwon Yongseok) (80361848)	一橋大学・大学院法学研究科・准教授 (12613)	
研究分担者	酒井 裕美 (Sakai Hiromi) (80547563)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・教授 (14401)	
研究分担者	高柳 友彦 (Takayanagi Tomohiko) (80588442)	一橋大学・大学院経済学研究科・講師 (12613)	
研究分担者	伴野 文亮 (Tomono Fumiaki) (60865624)	東北大学・学術資源研究公開センター・協力研究員 (11301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鄭 栄桓 (Chong Yonghwan) (90589178)	明治学院大学・教養教育センター・教授 (32683)	
研究分担者	崔 誠姫 (Choi Seonghee) (10867592)	大阪産業大学・国際学部・准教授 (34407)	
研究分担者	蔣 允杰 (Jang Yoongoal) (70886530)	九州大学・韓国研究センター・学術研究員 (17102)	削除：2021年11月26日
研究分担者	松田 英里 (Matsuda Eri) (00779902)	公益財団法人政治経済研究所・その他部局等・研究員 (72613)	削除：2021年6月30日
研究分担者	ベ ヨンミ (Bae Youngmi) (80612556)	大谷大学・文学部・助教 (34301)	削除：2020年9月2日
研究分担者	渡邊 治 (Watanabe Osamu) (70013026)	一橋大学・その他部局等・名誉教授 (12613)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 第2回日韓歴史共同研究シンポジウム（通算第22回）	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 第1回日韓歴史共同研究シンポジウム	開催年 2018年～2018年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------